

8月6日の木曜日、私は東京大学のオープンキャンパスへ行った。午前8時から午後の4時まで本郷キャンパスを存分に味わってきた。

第一印象は、敷地が広大で、数多くの建物がそびえ立つ景色に圧倒されたのを覚えている。そのどれもが歴史のある建物だ。

キャンパスには、制服を着た高校生がたくさんいて、東京大学の文房具を売る屋台や、飲み物を売る屋台、新聞を売る屋台などがあつた。

敷地内地図を持ち、私は見学を始めた。定員制企画については、申し込みをすることができなかつたため、一般公開の企画に参加することにした。私は医学部と理学部の企画に参加した。

まず始めに、医学部での企画へ向かつた。講義等を行われておらず、残念だったが、「健康と医学の博物館」へ行くことにした。

そこで、「死の真相を知る医学－法医学－」という期間限定の企画展が行われていた。私は法医学についてあまり知らなかつたので、興味があつた。

法医学とは、主にヒトを解剖し、死因を究明することだ。

内容に関しては、まず、映像による法医学の紹介や、実際に法医学が活かされた事例の紹介があつた。次に、法医学の歴史が壁に年表で示されており、かなり詳しく書いてあつた。特集として、東日本大震災の時にどのように法医学が活躍したのかが記されてあつた。豊富な数の資料に驚いた。

一方、常設展である「近代から現代への医学の歩み－医学部と附属病院の150年－」も見学した。

ここでは、今では全く使われていない古い医療器具、貴重な書類等多くがガラスケースの中に展示されていた。数々の記録をもとにして、年表が作られていた。数十年前と比べて、現代の医学がものすごく進歩しているということが明確に記されていて、その速さがうかがえた。興味深い資料ばかりで、つい長居してしまつた。

この博物館を見学して、今まで知らなかつた、知ることのなかつた未知の世界を見ることができた。これでもた、新しい可能性がでてきたと思う。

続いて、理学部の企画に参加した。理学部では、一般公開の講義があり、事前予約なしで教授、講師の講義を受けることができるというものだった。この講義は絶対に逃してはいけないと思い、1つの講義を受けた。

講義は、物理学科の原子核科学研究センターにて、内容は、「宇宙における物質の生成と流転～物質の構造と元素の起源～」というものだった。時間は40分間で行われた。席は100席以上あつたが、ほぼ満席状態だった。内容については、習っていない内容であり、知らない語句、図表、グラフがたくさんでてきた。それに加えて、講師の話す速さがとても速く、正直完全に理解したとは言いがたいと思った。それでも、講義ではスクリーンに映したプレゼンテーションで可能な限り分かりやすくしていることは分かつた。まだ、講義室に入れたことが貴重な体験であるし、大学の講義というものはどんなものなのか知ることができたことは収穫だと思う。良い経験だった。

理学部では、一般公開で展示学習も行われていた。これは、現役生が教室で実際に実験を行ったり、現役生が研究していることを分かりやすく展示したりするものだ。

私は、天文学科と地球惑星物理学科・地球惑星環境学科の展示学習へ行った。部屋の中には、数多くの資料があり、分かりやすく面白く、楽しい実験が現役生によって行われていたり、アンケートを交えたクイズラリーで楽しく学べるようにしていたりしていた。宇宙全体のことから、太陽系、太陽、隕石、地球の起源さど、普段私たちが知り得ないことを研究しているところだった。このカテゴリーも、私には興味深く、とにかく広い世界に足を踏み入れることがとても面白そうだった。

数々の実験の中で、私が最も面白く、興味深いと感じた実験があります。それは、地球の自転と重力の実験です。

水槽を回転台の上に乗せ、その水槽に10cmほどの高さの水を入れます。まず始めに、そのまま回転させる前に水にインクを一滴入れます。そうすると、不規則に広がり下に落ちていきます。では、水槽を回転させて、しばらくたってからもう1回インクを円を描いて入れると、広がることなく真下にインクが落ちて、オーロラのようなカーテンを水中に出現させます。また、そのインクの円の中に、水槽を回しながら、別の色のインクを入れると、その円から出ることは一度もありませんでした。

このことから、地球がものすごい速さで自転することと、重力が働くことが、空気や海水の運動の向きが鉛直下向きになることの根拠になっていることが分かりました。

こうして、地球規模の巨大な現象を、身近にある小さなもので、コンパクトに再現し、その現象について知ることにとっても感動した。

クイズラリーでは、10問中6問正解だったため、地球惑星物理学科・地球惑星環境学科キャンパスオリジナルうちわをもらうことができた。

他の学部や学科にも見学に行きたかったが、時間が足りなかったり、講義や展示等を開催してなかったりで、見学することができなかった。個人的に、一番楽しみにしていた、東京大学地文研究会地理部の日本全国立体地図を見ることができなかったのはとても残念だった。活動場所が本郷キャンパスではなく、駒場キャンパスだったことを見落としていた。まだ次の機会があれば、是非見学しに行きたい。

学部・学科の見学を終え、私は最後に安田講堂での説明会へ行った。大学説明会、入試説明会、医学部説明会に行ってきた。講堂には、学生がたくさんいて、皆真剣に話を聞いていた。その空気が少し緊張した。

説明会を聞いて感じたことは、今行っている勉強の基本、基礎を徹底的に行うことが、とても大切で、後で必ず役に立つということだ。応用問題も、基本問題が分からなければ解けない。当たり前だが、一番大切だと分かった。基礎を身に付けるためには、普段の授業、家庭学習の予習、復習をすることが必要になってくると思う。個人的には、根本的に学習時間が足りないとも感じているので、これからは身を引き締めて勉強に取り組みたい。

東京大学見学会を終えて、得ることが山ほどあった。今まで知らなかった世界を知ること、将来へのビジョンがいずれ見えてくるのかもしれない。この経験をどう生かすか、この貴重な体験を大事にして、受験までの二年間と数ヶ月、成長するかどうかは自分自身の努力次第だと思った。これからは、勉学に真摯に取り組み、粘り強く苦の壁に立ち向かっていきたい。